

生活の中で表現する力を高める指導の工夫

—これからの衣生活—

新学習指導要領が改訂され、家庭分野の評価の観点の趣旨も「これからの生活を展望して」を追加したり、「進んで実践しようとしている」に改められたりしている。これらは、学習した内容を「実践」つまり「表現」できる生徒の育成をめざしていると言えよう。「生活の中の情報を有効に取り入れ、自己の学習に活用できる授業」や「自分なりの見方、考え方を生かして、自己の考えを表現する授業」を行えば、生徒は「これからの生活を展望して表現する力」が付き、自立した衣生活を営もうとする力や、生活を工夫し創造する能力の育成が図れると考えた。

1. はじめに

今日の中学生を取り巻く環境は、家庭や地域の教育力の低下や、部活動や塾通いなど時間に追われた生活で、家庭において衣生活の自立がなされているとは言い難い。さらに、ほとんどの生徒が現在まで被服製作及び衣服の手入れなどの経験がほとんどない。そこで「衣生活・住生活と自立」の授業において、「生活の中で表現する力を高める指導」の手だてを工夫し、表現することを授業の中に意識的に取り入れることによって、生徒がこれからの生活を展望し、自立した衣生活への実践力が高まると考えた。

2. 実践について

(1) 本時の目標

利用されずにしまっている衣服について地域の人材の援助を通して、活用の仕方を試行でき、環境にも配慮したこれからの衣生活について説明することができる。

(2) 本時における授業づくりの視点

問題解決的な学習過程において課題を練り合う場面で、地域の人材活用を行う。これまでの自分たちの生活体験では体験しえなかった高度な技術を鑑賞する中で、高いレベルでの思考や表現をさせる。

さらに、本時の学習から家庭生活において実践しようと思ったことを「宣言シール」に書かせ、家庭に持ち帰り家族の見える所に貼り、自分が実践することを宣言しようと提案する。そのことで家族や

周囲の人々に伝える喜びや実践する意欲を高めさせればと考えた。

(3) 本時の実際

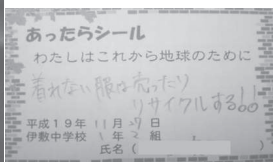
過程・時間	学習の流れ	教師の支援と留意点	*繰り返し高い合いの工夫	評価（観点）
20分	8 地域のマイスターの作品を観察する。	8 地域のマイスターによる、死蔵の服をリフォームした作品例を観察させ、計画の内容をホワイトボードに書き発表させる。		9 観察及び評価カードのチェックにより確認する。
	9 できたか	10 意見を出せるよう机回しを行う。		11 地域のマイスターによる作品例を観察し、生徒相互のミニアドバイスカードにて計画をさらによいものになるよう意見を交換させる。
	11 リフォームの計画について意見交換をさせる	12 わかったか	13 VTRにて資源としての衣服の活用の仕方を知らせる。	12 観察及び評価カードのチェックにより確認する。
	12			
5分	本時のまとめ	17 本時の学習を今後の日常生活に活かすことができるよう宣言文を考えさせ、「あったらシール」に記入させ意欲付けを図る。		17 あったらシール
	自己評価	18 基礎的・基本的内容の理解と今後の生活に生かしたいこと等についてナビカードで自己評価させる。		18 ナビカード リフォームした服
	おわり			



リメイクした作品を紹介する地域の方



「あつたらシール」に宣言を記入する生徒



「あつたら（鹿児島弁ではもったいないことをあつたらしいという）シール」に書かれた生徒の宣言内容は次のようなものがあった。

- 私はくつ下に穴が開いても、捨てないで穴を縫ったり、最後は掃除の時に使ったりします。
- ぼくは、父親やぼくのワイシャツで枕カバーや部活の用具入れを作ります。
- わたしは小さくなった服は捨てないで、バザーに出して活用してもらいます。

どの生徒も環境のことを意識した内容や自立した衣生活を営んでいこうという意欲に満ちた内容が書かれてあった。

（4）授業後の考察

生活で表現する喜びを味わえる地域や家庭との連携の工夫は有効であったか、授業後生徒にアンケートをとり、その考察を試してみた。

ア 地域の人材活用や高度な技術や作品を見て、あなたの考えは深まったか。

すごく深まった	深まった	53%	変わった
44%			ない3%

イ「宣言シール」に家庭で実践することを書くことによって、あなたの実践力は高まったか。

すごく高まった	高まった	74%	変わらない
13%			13%

ほとんどの生徒は問題解決的な学習過程において課題を練り合う場面で、地域の人材活用がこれまでの自分たちの生活体験では体験しえなかった高度な技術や作品を鑑賞することによって、高いレベルの思考や表現ができ、学習内容を生活の中で実践する意欲が高まったと考えられる。さらに、本時の学習から学び実践しようと思ったことを「宣言シール」に書くことによって多数の生徒は家族や周囲の人々に伝える喜びや実践する意欲が高まったと答えている。地域の人材活用や「宣言シール」を書くことは、生活で表現する喜びを味わえる手だてとして有効であったと思われる。今後さらに地域の人材活用や「宣言シール」を活用する場面を開発していきたい。

3. おわりに

「衣生活・住生活と自立」の授業において、「生活の中で表現する力を高める指導」の手だてとして、「地域の人材」活用と、学校で学習した内容を家庭で実践しようとする意欲を表す「宣言シール」の活用をおこなった。本教科の目的達成のためには、生徒に様々な情報の収集や生活に役立てたいという思いを表させる手だてが必要だと感じた。今後も様々な授業場面で「生活の中で表現する力を高める指導の工夫」をおこなっていきたい。

参考文献・参考Webページなど

- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」平成20年9月
- ・中学校技術・家庭科理論と実践NO.45～NO.47（全日本中学校技術・家庭科研究会）